

資料3 名護市中心市街地のまちづくりの状況について

目次

1. 前回の議論内容
2. 名護市中心市街地のまちづくりの状況
3. 名護市中心市街地土地区画整理事業の検討状況
4. 名護漁港浮棧橋整備事業について
5. 名護市コミュニティバス（なご丸）の利用状況
6. 今後の検討について

1. 前回の議論内容（名護湾沿岸(名護漁港周辺エリア)実施計画)

- 名護湾沿岸（名護漁港周辺エリア）実施計画の整備計画の全体像を提示。

整備計画図

- 交通結節点及び集客施設の整備を図り、その用地の創出や国道58号の移設等を含めて、面整備手法の活用を検討。
- 基幹交通フィーダー交通が接続し、多様な交通モードの乗り換えがしやすい交通結節点を創出し、さらに、交通結節点から連続したウォーカブルストリートの創出により、まちなかへの回遊性を向上させ、人通りの増加により賑わいを創出するものとしている。

<整備内容>

ウォーカブルストリートの整備、
広場や歩道等の公共空間の活用

<関連事業>

- まちなかウォーカブル推進事業
- 歩行者利便増進道路 等

<整備内容>

交通結節点の整備

<関連事業>

- バスタプロジェクト
- 都市・地域交通戦略推進事業 等

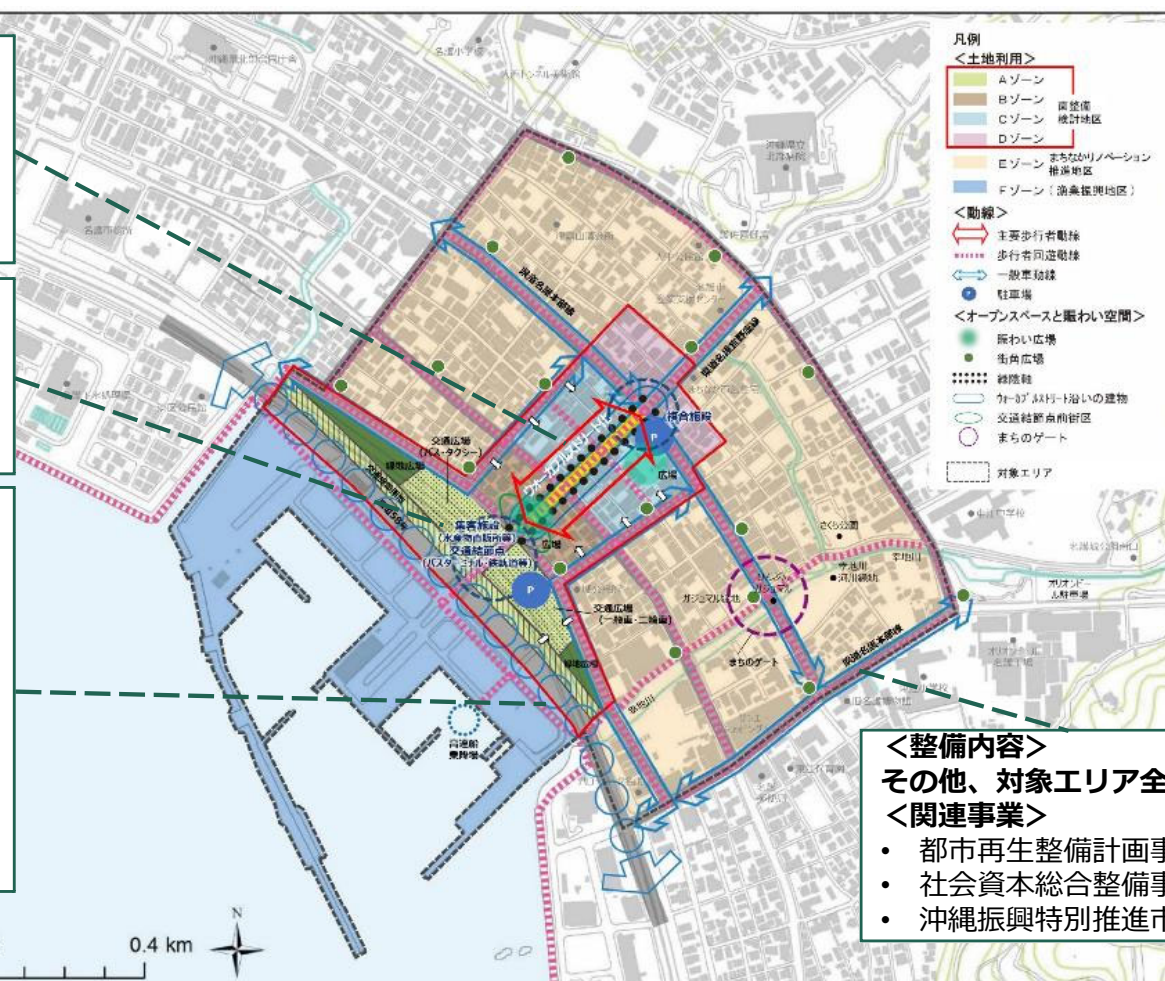
<整備内容>

面的整備

- 国道58号の移設
- 県道名護宜野座線の拡幅
- 交通施設・交通広場・集客施設・複合施設の用地創出
- 公共施設（道路・公園等）整備
- 宅地の整備・再配置

<関連事業>

- 市街地開発事業等
- 優良建築物等整備事業等



<整備内容>

その他、対象エリア全体の総合的な整備

<関連事業>

- 都市再生整備計画事業
- 社会資本総合整備事業
- 沖縄振興特別推進市町村交付金 等

1. 前回の議論内容（面整備に向けた検討）

- 名護湾沿岸（名護漁港周辺エリア）実施計画において示されている面整備検討地区を対象に名護中心市街地整備事業における面整備の施行区域を設定や区域内の現状や課題について提示。

面整備の施行区域の設定の意義

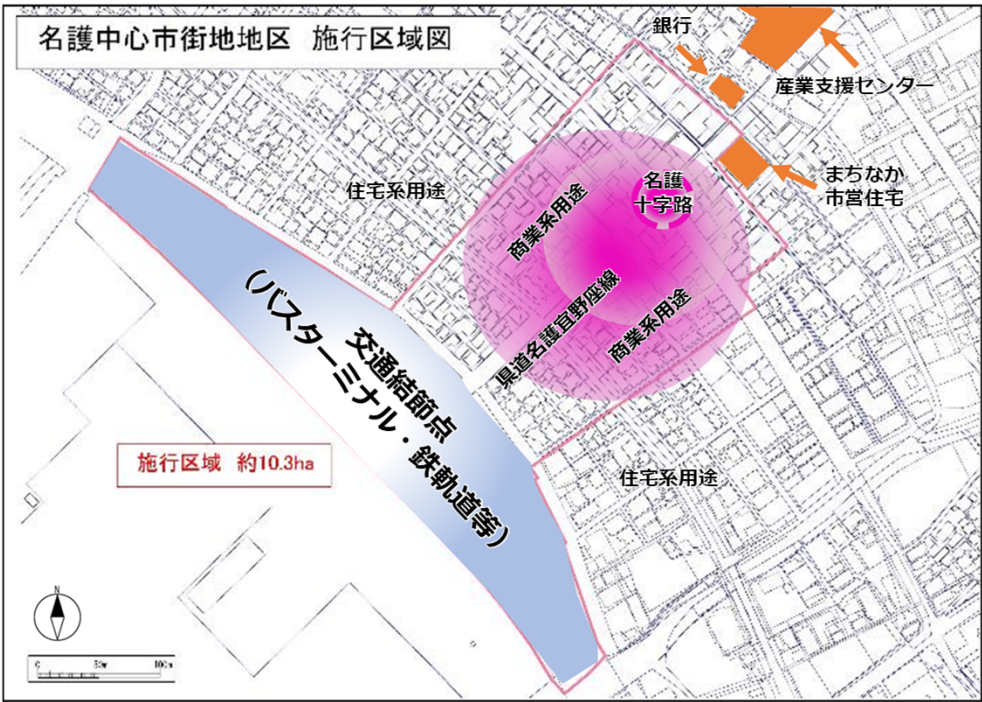
- 名護十字路付近に公共サービスを核とする複合施設の配置等も予定され、人々が集い賑わうまちの形成がまちづくりの基本的な考えとして示されている。
- 対象エリア内に、交通結節点（バスターミナル・鉄軌道等）の配置が予定されていることからやんばるの玄関口として中心市街地を含む周辺整備の必要性が高くなることが予想される。

面整備を集中的に取り組むことにより、「まちなかりノベーション推進地区」「漁業振興地区」を含む対象エリア全体への整備効果の波及が期待できる。

施行区域の範囲

東西	東側	既存の公益施設等の整備状況を鑑みて、まちなか市営住宅と金融機関を除いた範囲で設定
	西側	交通結節点の検討が進められており、国道58号の改良も視野に入れ、国道58号を含める範囲で設定
南北	北側	県道名護宜野座線を軸とした南北I街区分を範囲とし、市道37号線を含む範囲で設定
	南側	県道名護宜野座線を軸とした南北I街区分を範囲とし、市道28号線を含む範囲で設定

名護中心市街地地区施行区域



1. 前回の議論内容（面整備施行区域の現状・課題）

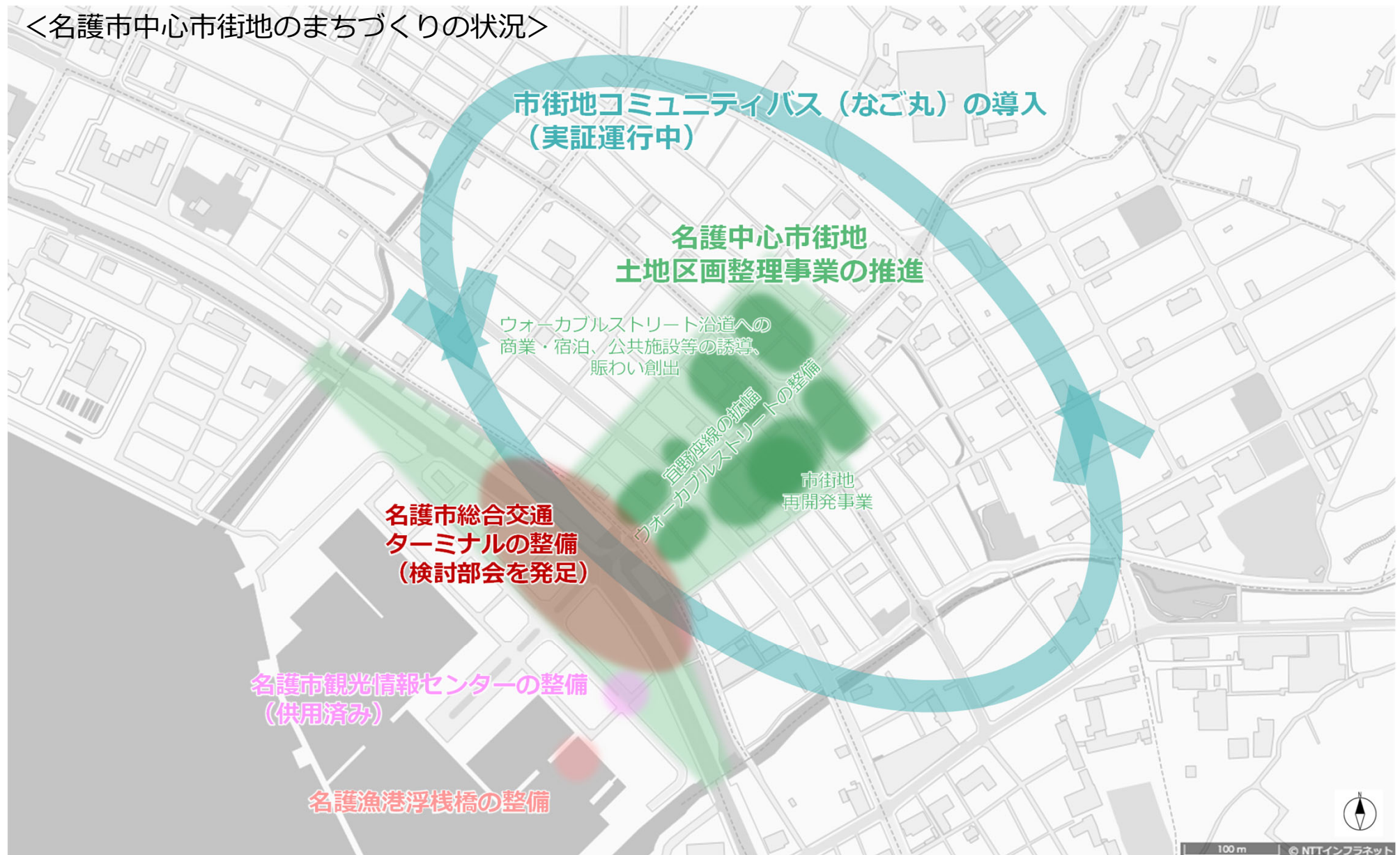
- ・名護湾沿岸（名護漁港周辺エリア）実施計画において示されている面整備検討地区を対象に名護中心市街地整備事業における面整備の施行区域を設定や区域内の現状や課題について提示。

課題	現状
課題 1 : 狹隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善	・昭和56年以前に建築された旧耐震のものが多く、老朽化が進行している。 ・戦災復興土地地区画整理事業により市街地の道路及び宅地が形成されたが、2項道路にのみ接道している敷地もあり、一部の街区では未接道敷地もみられる。
課題 2 : 避難場所の確保された安全・安心なまちづくり	・想定される津波は、最大で浸水深5m以上10m未満であり、高潮は浸水深1～2m、漁港の護岸沿い等で2～3mとなっている。 ・一方、居住者の高齢化が進行しているが、防災避難場所が設置されていない状況。
課題 3 : 住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化	・今後もこの区域内で引き続き住み続けたい（商売したい）と思う人は約41%いる一方、思わない人が約22%を占めている状況。
課題 4 : 路線バスの乗り継ぎ利便性の向上	・路線バスは、中南部地域と北部地域各方面をつなぐ路線となっており、名護十字路と名護バスターミナルが交通結節点。乗換や待合環境などに課題あり。
課題 5 : 名護漁港と中心市街地の回遊性の強化	・名護漁港では、水産業の活性化と観光産業の振興を図るため、平成21年に「名護漁港水産物直販所」をオープン。年間約10万人が利用。 ・国道58号による中心市街地との分断により、確保されていない。
課題 6 : 名護漁港、国道58号、中心市街地の公共施設の再配置等による都市機能の集積	・観光客の立ち寄り先は、市街地手前の道の駅許田や国道58号沿道の大型商業施設、観光施設周辺に集中し、中心市街地への立ち寄りが少ないなど、観光客の引き込みができていない状況。
課題 7 : 中心市街地の賑わいの創出	・市民アンケートでは「名護十字路周辺の中心市街地に商業施設や業務施設、マンションなどの新しい建物が増え、歩行者も増えて賑わっている」に対して、「変わらない」「悪くなった」との回答が計53.3%を占めている。

2. 名護市中心市街地のまちづくりの状況

- 名護市中心市街地では、名護市総合交通ターミナルの検討の他、名護市中心市街地土地区画整理事業や名護漁港浮棧橋整備事業の推進、名護市コミュニティバス（なご丸）の本格運行等、整備計画の実現に向けた取組が進んでいる。

<名護市中心市街地のまちづくりの状況>



3. 名護中心市街地土地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

2-1. 意向調査の状況

- 面整備の施行区域内の権利者に名護湾沿岸実施計画の実現に向けたアンケート調査を実施。

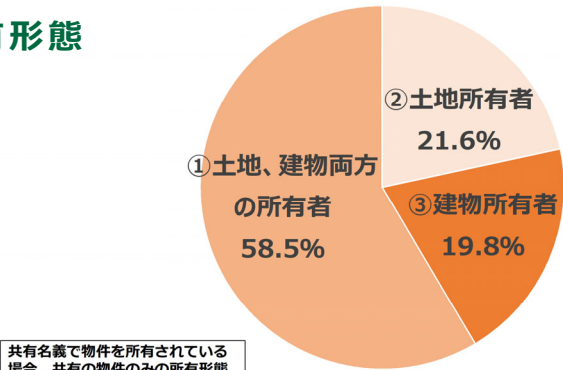
アンケート調査の概要

- 実施時期：令和4年12月～令和5年9月
- 実施方法：郵送による配布、回収(個別回収含む)
- 配布・回収状況：

配布数	回収数	回収率(%)
141	121	85.8

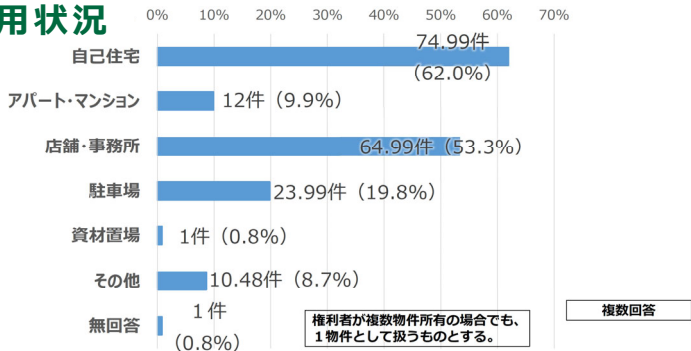
- ✓ 今回は権利者ごとに発送をおこなっており、返送があった回答を1件として集計を行う。
- ✓ ただし、共有物件の集計方法については、共有者が数名いても、1組（1件）として集計する。

1. 所有形態



共有名義で物件を所有されている場合、共有の物件のみの所有形態で集計。

2. 土地利用状況



権利者が複数物件所有の場合でも、1物件として扱うものとする。

複数回答

アンケート調査結果

1. 区域内にあればよいと思う施設

- 健康（医療、介護 等）
- 生活（市役所、市民会館、大学キャンパス、公園、市場、食堂 等）
- アミューズメント（映画館、有名チェーン店、イベント施設、子供向け屋内遊具、スポーツ 等）
- 交通（移動用乗り物、バス停留所、大型駐車場 等）
- 文化・観光（琉球の歴史・文化体験、観光案内、国立歴史博物館、動植物園、屋台村、全国アンテナショップ、温泉、宿泊 等）

2. その他の意見

- ・事業の進捗や大まかなスケジュール、地権者側の手続き等を知りたい。
- ・計画に前向きに検討したいと思う。
- ・人が集まるような目玉があると良い。
- ・家族のことを考えると、基本的に開発に関しては反対であるが、状況が変われば名護市のためだと考えると良い開発をしてほしいと思う。
- ・行政、市民が創った計画であれば積極的に協力する。
- ・現時点では情報が不足していることから、判断できない。等

3. 名護中心市街地土地地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

2-2. 企業へのヒアリング

- 名護中心市街地地区のポテンシャルや機能について、「土地地区画整理事業と市街地再開発事業の一体的施行」を前提とした企業ヒアリングを実施（大手デベロッパー、ゼネコン7社）。

項目	意見
1. 市街地再開発・計画検討のポテンシャル	- 交通結節機能を有しており、多くの企業が高いポテンシャルを秘めている地区との肯定的な意見が多い。 -交通結節機能がすることが魅力的 -土地利用計画に基づいて市街地再開発事業を行う意義は高い -港機能と国道58号は財産
2. 都市機能・施設の需要について	「ホテル等宿泊施設」では、全社が観光・ビジネス客の宿泊ニーズがあるとの考えを示した。 - 住居系では、「マンション（分譲/賃貸）」は需要ありと考える会社が多かった。「共同住宅」は、近年の建築コストの上昇などを考えると否定的な意見もあるが、将来的なバスタ整備次第では需要が見込めるとの意見もあった。 「商業施設」の需要もあると考えているが、大型商業施設ではなく、既存の施設（商店街や市場等）のイメージをもっていることが伺えた。 -既存施設（商店街や公設市場等）等の中小規模の商業施設の需要はある -既存施設と共存する形が望ましい - 大規模病院や大型オフィスは近隣の施設の立地状況から需要が見込めないとの意見があった。複合的な施設に各機能を含めることは必要との意見もあった。 -医療系は、公立沖縄北部医療センターの開設が予定されており、需要は低い。 -大規模オフィスや事務所の需要は少ない。「マルチメディア館、みらい1～5号館」がまだ空きがあり、新たにオフィスと事務所は考えにくい。一方で、サテライト事務所の需要は見込める。
3. 事業参画の可能性等	- 具体的な条件等の提示ができない状態でも、全社、事業参画の可能性を確認。 - 漁港や国道に近く、交通結節点を検討しているエリア、名護十字路付近での事業展開の意向があった。

3. 名護中心市街地土地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

2-3. 名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）のとりまとめ

•これまでの調査結果を踏まえ、名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）をとりまとめ中。

＜名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）設計の方針＞

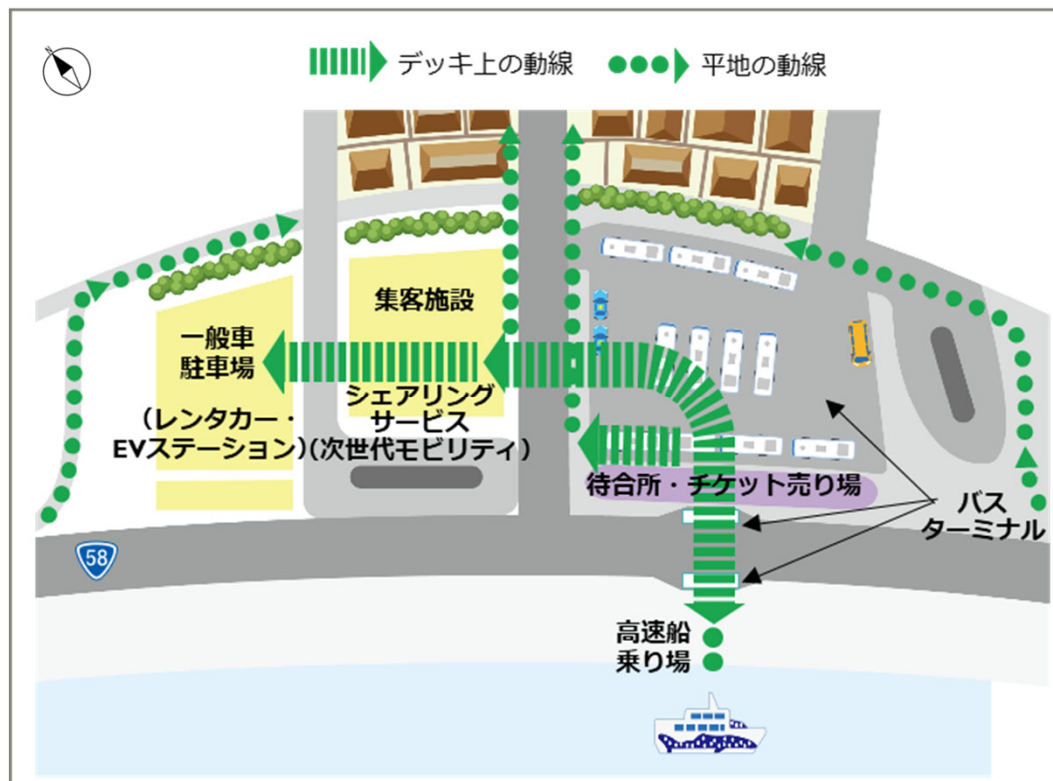
項目	内容
(イ) 土地利用計画	本地区の土地利用計画としては、やんばるの玄関口としての役割を担う魅力ある中心市街地の形成を図り、まちの活性化を促進する計画を基本とする。 主要幹線道路沿道は商業地として高度化を推進し、商業機能の強化とにぎわいを創出する。また、地区の周辺部は戸建てを主体とした住宅地とし、現況のコミュニティに配慮しつつ防災上の観点から都市基盤整備を行い良好な住宅地を供給する計画とする。 また、別途事業により、総合交通ターミナル（公共交通結節施設・物産交流施設）を配置する。
(ロ) 人口計画	本地区の人口密度は、人口密度40人/haを設定し、地区内計画人口を400人とする。
(ハ) 公共施設計画	a 道路：街路計画は、都市計画道路3・4・4号伊差川線（幅員25～30m）を主軸とした、歩いて楽しめるウォークアブルな空間づくりに向けて、シンボルロードとしての整備を図るため歩道幅員の拡幅等を行い、3・5・5号城通り線（幅員16～18m）、3・5・1号中央線（幅員19m）を道路網の骨格とし、地区内の道路ネットワークを補完するため、3・4・名28号市街地東線（幅員16m）と3・4・名37号市街地西線（幅員16m）と7・5号港線へと接続する。また、宅地へのサービス街路として幅員5～6mの区画街路及び幅員3～4mの特殊街路（歩行者専用街路）を配置する。 b 公園・緑地：公園については、地区面積の3%以上を確保し、街区公園を1ヶ所に配置する。また、緑地は国道58号と市街地との緩衝帯として配置する。 c 水路等：水路については、土地利用計画や公共施設計画を考慮し、整備改善を行う。整備については別途事業により実施する。雨水排水については、道路側溝により集水し、排水路に流入させ地区外へ放流する。
(ニ) 公益施設の配置等	本地区の公益施設について、地区の中央部に公共サービス機能を核とする複合施設を計画する。
(ホ) 供給処理施設の整備計画	上水道は地区全域に供給を行うものとし、本事業による道路計画にあわせて給水管の移設を行う。下水道については、本事業との整合性を図りつつ、公共下水道事業により整備を行う。

3. 名護中心市街地土地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
 【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
 【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

2-3. 名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）のとりまとめ

- ・ R6.1.24に開催したワークショップでは、交通結節機能に対して、多様な交通手段の接続強化として、「高速船・バス・鉄道の乗り継ぎ利便性の向上」「北部レンタカー拠点の創出による広域観光の促進」が挙げられた。



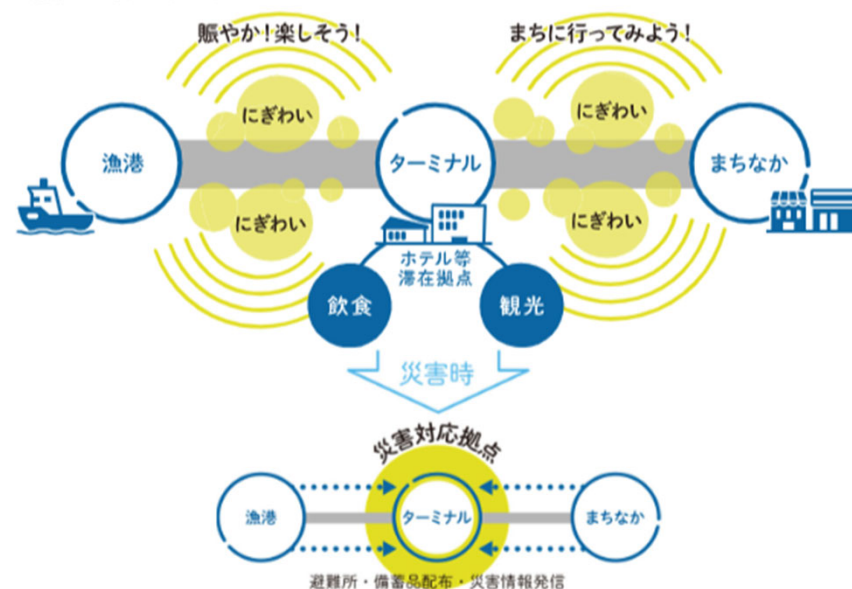
■将来“こうあったらいいな”のキーワード



■ターミナルに求める機能

防災	● 住民・観光客が安全に避難・待機できる災害に対応した建物・道路・緑地
交通	● ハブ交通の拠点
飲食	● 名護のグルメ・飲食店・土産物屋
物販	● コワーキングスペース・ワーケーション施設
企業支援	● ビジネスマッチング・学生の活躍の場
賑わい・交流	● 名護らしいシンボル・モニュメント・シンボルロード
観光・宿泊	● 名護らしいお祭り

■将来のエリアのイメージ

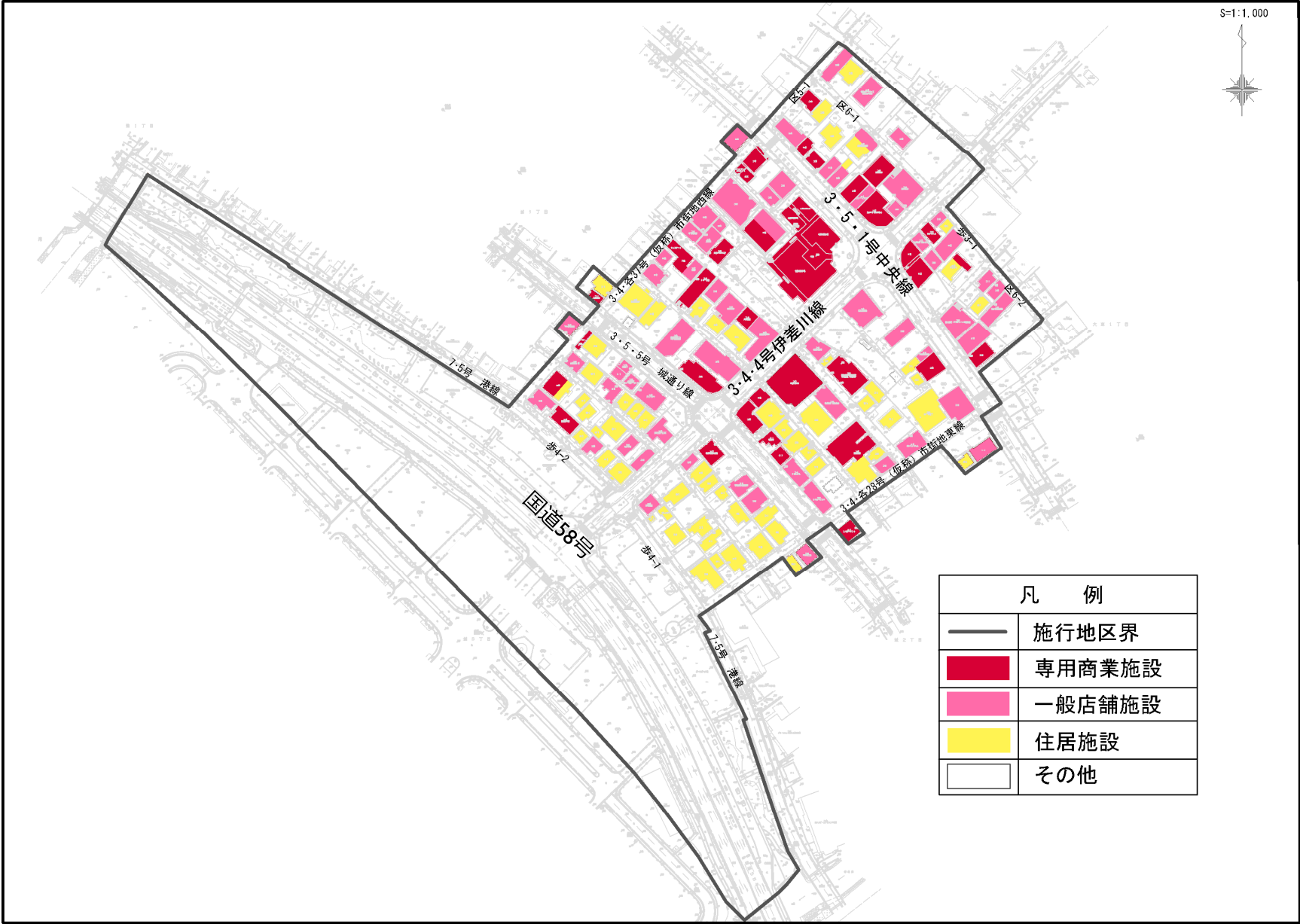


3. 名護中心市街地土地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

2-3. 名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）のとりまとめ

名護市中心市街地整備事業 現況図（イ）



3. 名護中心市街地土地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

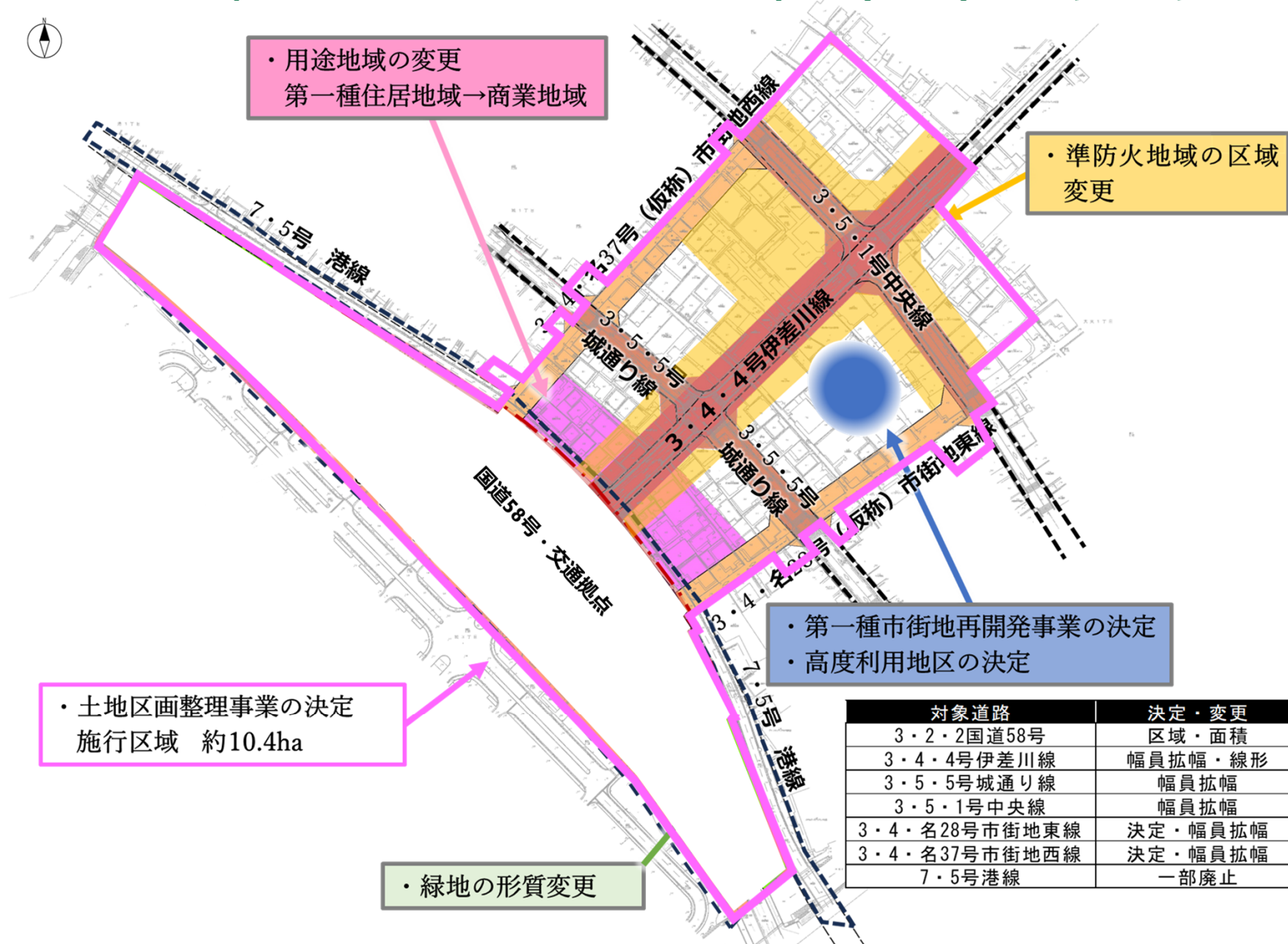
2-3. 名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）のとりまとめ



3. 名護中心市街地土地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
 【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
 【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

2-3. 名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）のとりまとめ



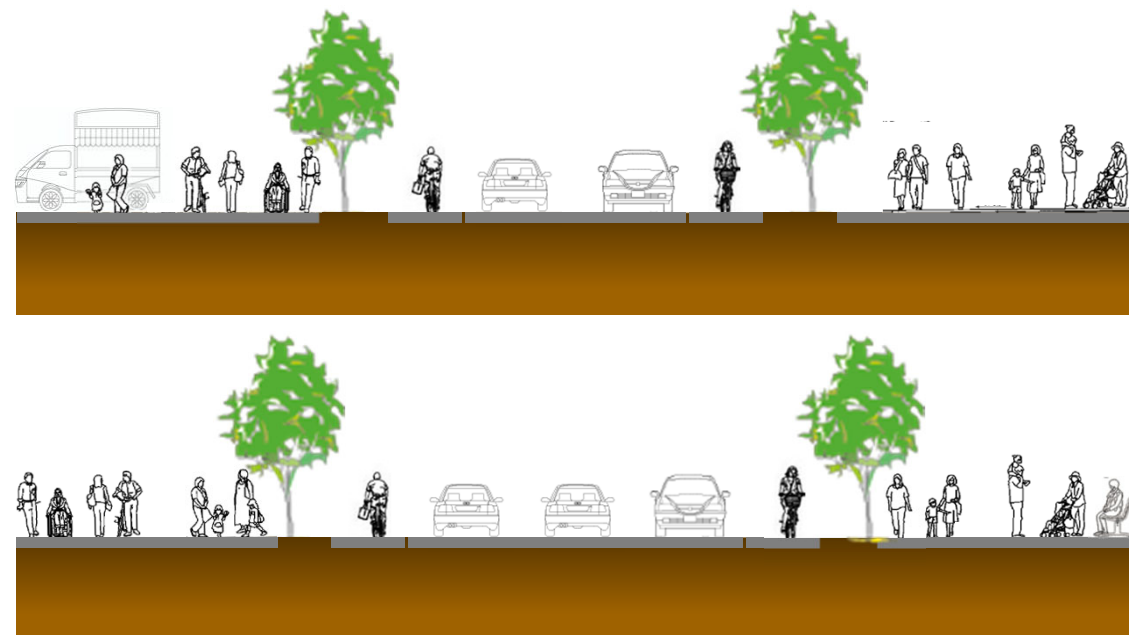
3. 名護中心市街地土地区画整理事業の検討状況

【課題1：狭隘道路や老朽住宅の解消による生活環境の改善】
【課題3：住み続ける（商売し続ける）ための都市機能の強化】
【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

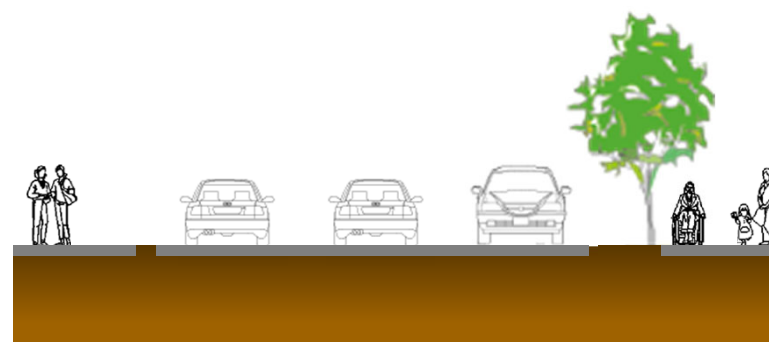
2-3. 名護中心市街地土地区画整理事業 事業計画（素案）のとりまとめ

<シンボルロード断面イメージ>

基本構成図



<東西市街地線 断面イメージ>



4. 名護漁港浮棧橋整備事業について

【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】への対応

- 名護漁港浮棧橋整備事業により、高速船等（ジンベエ・マリン）の乗降改善を実施中。
⇒これまでより観光情報センターからの乗降場所が近くなり、利用者の利便性が図られる。8月供用予定。

名護市は沖縄県北部に位置し、豊かな自然の象徴である名護湾を活用したまちづくりを推進するため、名護漁港周辺を対象エリアとした様々な施策を展開している。

那覇～名護間を結ぶ高速船の運航に伴い、多様な移動手段の一つとして利用が期待できる。また、名護湾を活用した新たなイベント等で本市への観光客の流入も期待できる。しかし、名護漁港内では船への乗降手段としては、岸壁へ船を横付けし、乗り降りしており、潮の干満により、船への乗降が安心・安全に行えず、利便性に支障をきたしている。

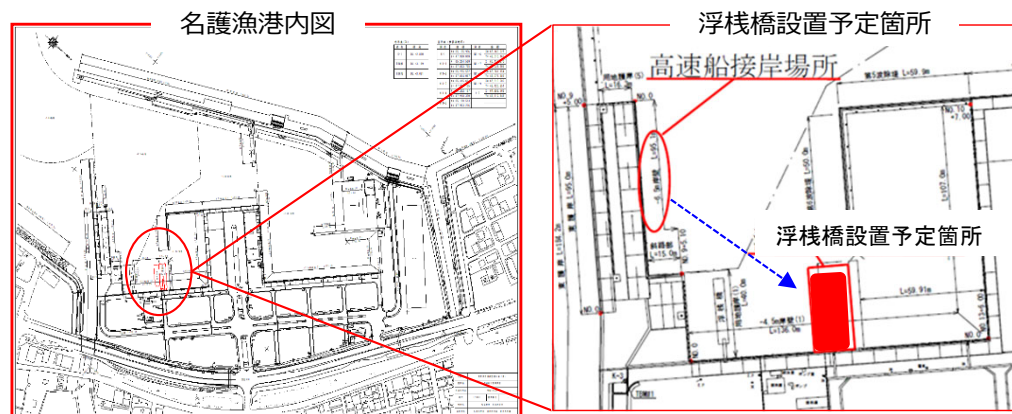
浮棧橋を整備することにより、高速船への乗降の安全性、利便性の向上を図り、観光客や地域住民等への高速船利用を促進し、北部圏域全体の観光振興や活性化に寄与する。

高速船「ジンベエ・マリン（タクマ3）」

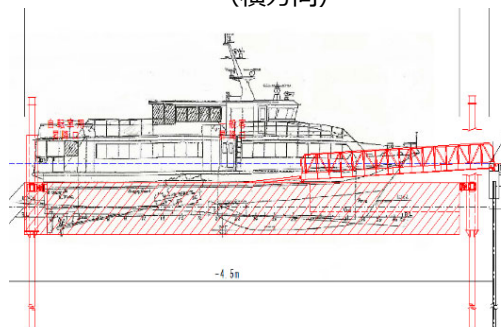


- 那覇・泊ふ頭～名護漁港～本部渡久地港を結ぶ高速船は、1日 2往復運航。名護港寄港は1往復
(令和4年4月運航開始)
- 高速船は那覇から名護まで75分で移動することができ、
- 乗客定員が180名でキャリーバッグや大型バッグなどの持ち込みにも対応した荷物置き場やサイクルファンのためのロードバイク置き場が完備されている。

浮棧橋事業計画箇所、イメージ図等



浮棧橋設置イメージ図
(横方向)



浮棧橋イメージ写真



4. 名護漁港浮棧橋整備事業について

【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】への対応

・名護漁港での高速船からの2次交通の改善として、以下を実施。

- ①コミュニティバス（市内循環）の運行
- ②漁港内にカーシェアを配置

＜①コミュニティバス（市内循環）の運行＞

※「名護博物館前」にコミュニティバス（なご丸）のバス停を追加設置。

コミュニティバス（なご丸）は、4月以降も実証実験を継続中であり、循環線は10月より本格運行を開始。



＜カーシェアの配置＞

※漁港内のカーシェアは、R6.4月より名護漁業協同組合がTOYOTAと契約を行い実施中。



※名護市地域公共交通協議会（R6.3.28）資料より

5. 名護市コミュニティバス(なご丸)の利用状況

【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

4-1. 名護市コミュニティバス（なご丸）の概要

ノンステップのEV車両を用いて、コミュニティバス（なご丸）の実証運行を実施。
循環線は2023/9/17より、二見以北線は2024/2/23より運行している。
4月以降も実証実験を継続中であり、循環線は10月より本格運行を開始。

1. コミュニティバス（なご丸）の実証運行概要

1.1 実証運行概要

循環線	実証期間	2023.9.17（金）～2024.3.31（日）	
	運行日数	197日間	
	路線数	2 路線 ① 右回り ② 左回り	
	行き先・便数	① 名護バスターミナル循環 ② 名護バスターミナル循環	8 便 8 便
	運行時間帯	① 右回り：7:30～19:28 ② 左回り：7:45～20:18	
	運行台数	2 台（各路線それぞれ 1 台で運行）	
二見以北線	実証期間	2024.2.23（金祝）～2024.3.31（日）	
	運行日数	38日間	
	路線数	1 路線	
	行き先・便数	・有津行き ・名護バスターミナル行き	3 便 3 便
	運行時間帯	有津行き：8:20～19:15 名護バスターミナル行き：10:29～21:18	
	運行台数	1 台（1 台にて往復運行）	

1.2 運行車両

- ✓ EV Motors Japan社が提供するEVコミュニティバスを導入
- ✓ 大容量バッテリーと世界最高クラスの低消費電力システムを搭載し、1回の充電で230kmの長距離走行が可能

F8 series-4-Mini Bus		シングルドア
寸法（mm）	全長	6,990
	全幅	2,105
	全高	3,100
座席数（人）		12(座席)+16(立席) +1(運転席)
乗車定員（人）※立席込み		29名
バッテリー容量（kWh）		114

1.3 車両ラッピング

多くの市民や観光客等に愛着と親しみをもっていただき、広く利用周知を図るため、ラッピングデザインした車両で運行



名護市のシンボルと名護親方

名護市のゆるキャラである名護親方をモチーフに採用

名護市の海

「あけみおのまち」をメインテーマに、写真を使ったデザイン

名護の桜と情景

自然味溢れ情景豊かな名護市をテーマとした

名護市の桜

名護市の象徴的存在でもあるカンヒザクラがメインコンセプト

※名護市地域公共交通協議会(R6.3.28)資料より

【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】 【課題7：中心市街地の賑わいの創出】 への対応

循環線は、R4年度と同様のルートで、名護博物館の前にバス停を追加設置。
二見以北線は、カヌチャリゾートへの乗り入れや市営住宅、県営団地経由にて運行

1.4 運行ルート

- ✓ 循環線は、市街地の交通空白地を通るR4年度実証と同様のルートで、2023年3月に移転した名護博物館の前にバス停を追加設置した
- ✓ 二見以北線は、78系統名護東部線の運行していない日中や夕方の時間帯に運行し、市街地内は一部循環線のルートと重複することで当該区間の運行頻度を高めるとともに、人口が多く分布している大北市営住宅や県営名護団地を経由するように設定した



循環線

イオンを中心としたパターンダイヤ（毎時00分または30分発着）

市役所、高校の登庁・登下校
(名護市役所、名護市民会館、名護高校、名護商工、北部農林)

名護博物館への停車

二見以北線

78系統名護東部線の運行時間帯を補完する時間帯の運行

カヌチャリゾートへの乗り入れ

市街地の人口集積地かつ交通空白地域へのバス停設置

市街地の運行本数増加

5. 名護市コミュニティバス(なご丸)の利用状況

【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】 【課題7：中心市街地の賑わいの創出】 への対応

4-1. 名護市コミュニティバス（なご丸）の概要

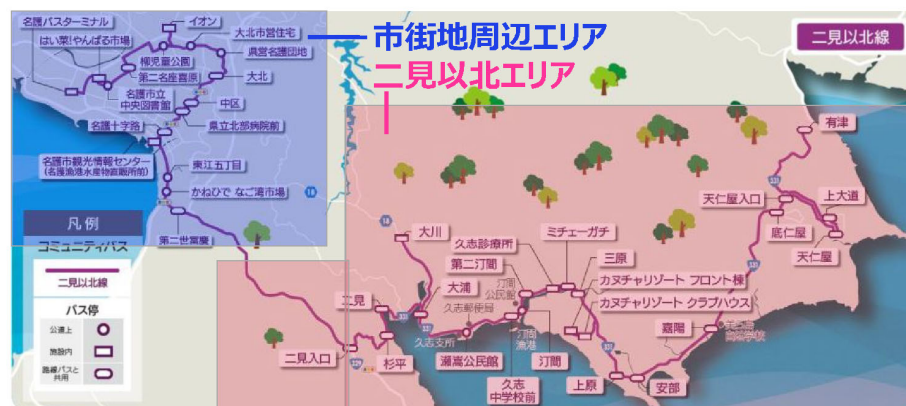
循環線は200円均一、二見以北線は同一エリア内の移動は200円、エリア移動は400円。未就学児、高齢者、障がい者は無料、学生は半額の割引運賃とした

1. コミュニティバス（なご丸）の実証運行概要

1.5 運賃

- ✓ 循環線は、200円の均一料金
- ✓ 二見以北線は、同一エリア内は200円、エリア間移動は400円

対象	運賃	確認方法
一般	循環線 一律 200円	—
	二見以北線 同一エリア内 200円 エリア移動 400円	
未就学児	無料	目視
高齢者(65歳以上)		免許証・保険証・年金手帳
障がい者		障がい者手帳・ミライロID
学生(小・中・高)	半額	小学生：目視 中・高校生：学生証



1.6 キャッシュレス対応

- ✓ OKICAおよびクレジットカードのタッチ決済を導入
- ✓ OKICAは降車時、クレジットカード決済は乗降時のデータを取得

お支払	乗車時	降車時
現金(硬貨)	—	投入
OKICA(オキカ)	—	画面にタッチ
クレジットカードタッチ決済 (Visa/JCB/AmericanExpress/ DinersClub/Discover/銀聯)	画面にタッチ	画面にタッチ

OKICA(オキカ)でのお支払い方法

① 対象のボタンを押す

	循環線	二見以北線 同一エリア内	二見以北線 エリア移動
一般	F1 ※操作なしでも可	F3	
小学生	1	3	
中学生	4	6	
高校生	7	9	

② 対象運賃になっているか確認

③ OKICA(オキカ)を画面にタッチ(3秒程度)

5. 名護市コミュニティバス(なご丸)の利用状況

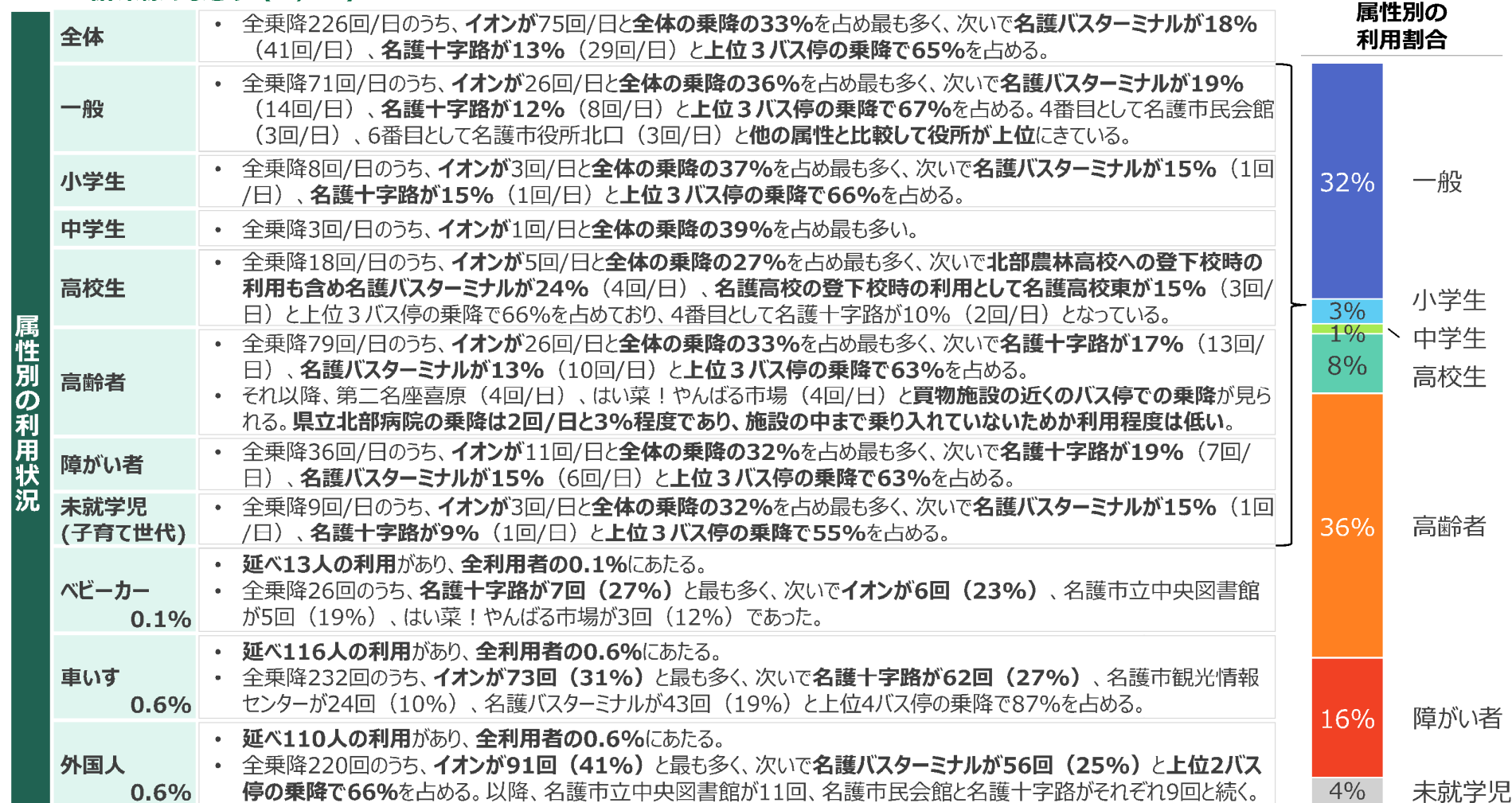
【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】 【課題7：中心市街地の賑わいの創出】 への対応

4-2. 名護市コミュニティバス(なご丸)(循環線)の利用状況

全体および属性別の傾向として、イオン、名護バスターミナル、名護十字路の乗降が多い。高校生の登下校時や高齢者の買物時に多く利用されているなどの特徴も見られる

2. 循環線の利用実績

2.1 循環線のまとめ(2/2)



5. 名護市コミュニティバス(なご丸)の利用状況

【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】
【課題7：中心市街地の賑わいの創出】への対応

4-2. 名護市コミュニティバス(なご丸)(循環線)の利用状況

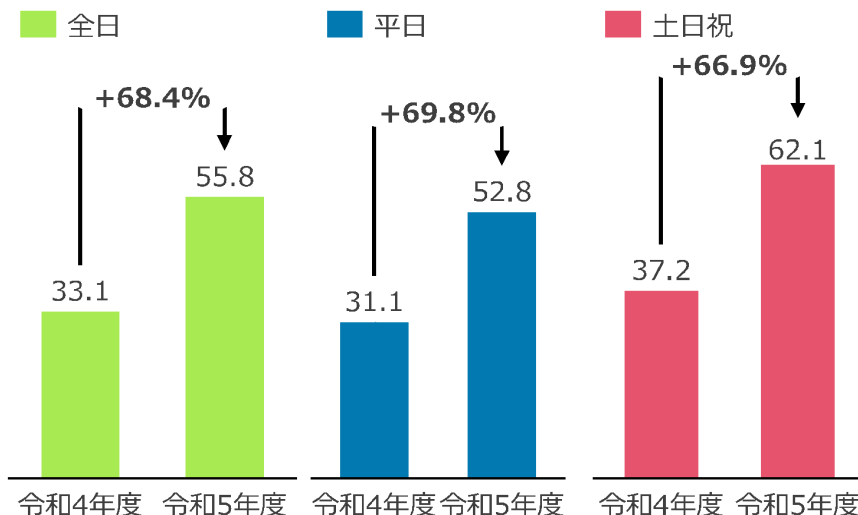
R4年度実証と比較して、
日平均利用者数は右回りで+68.4%、左回りで+70.4%増加

2. 循環線の利用実績

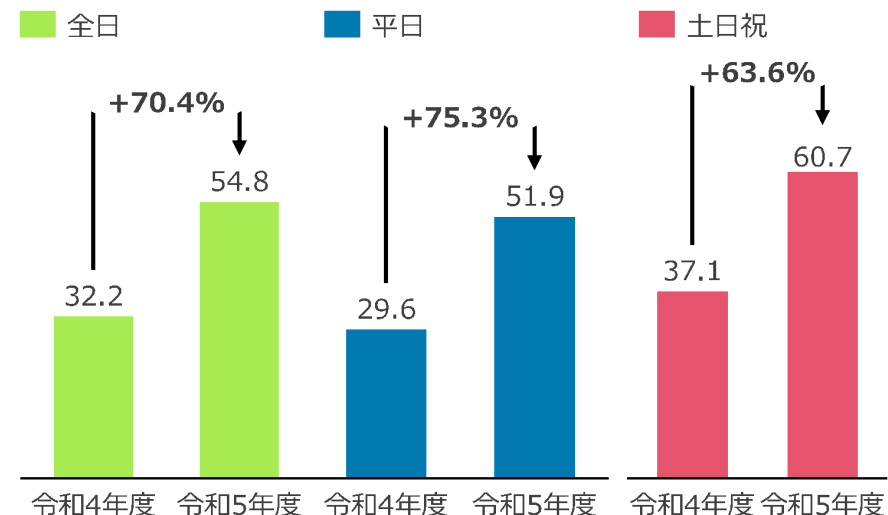
2.2 日平均利用者数の年度比較

循環線	右回り	便数 8	曜日	令和4年度 (人/日)	→	令和5年度 (人/日)	前年比増減数 (人/日)	前年比増減率 (%)
			平日	31.1		52.8	+21.7	+69.6%
			土日祝	37.2		62.1	+24.9	+66.9%
	左回り	8	全日	33.1		55.8	+22.7	+68.5%
			平日	29.6		51.9	+22.3	+75.4%
			土日祝	37.1		60.7	+23.6	+63.6%
			全日	32.2		54.8	+22.7	+70.4%

循環線（右回り）



循環線（左回り）



5. 名護市コミュニティバス(なご丸)の利用状況

【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】 【課題7：中心市街地の賑わいの創出】 への対応

4-2. 名護市コミュニティバス(なご丸)(循環線)の利用状況

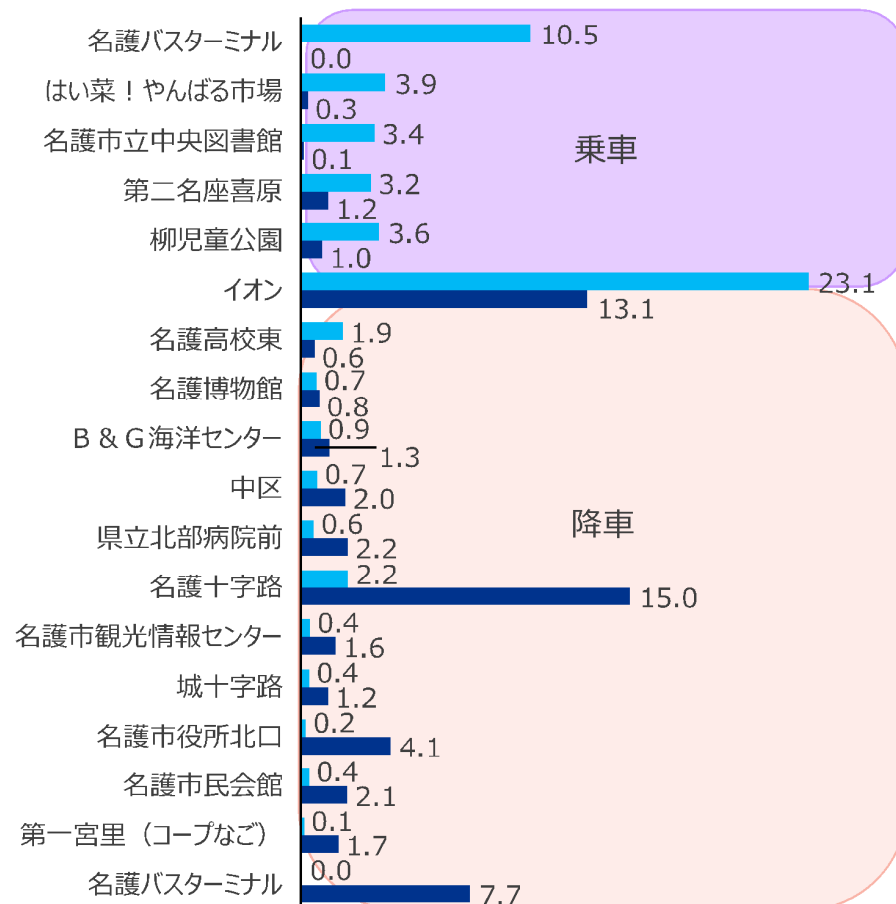
過年度と同様に、イオン、名護十字路、名護バスターミナルでの乗降者が多い。
今年度新設した名護博物館は、周辺バス停と同程度の利用が見られた

2. 循環線の利用実績

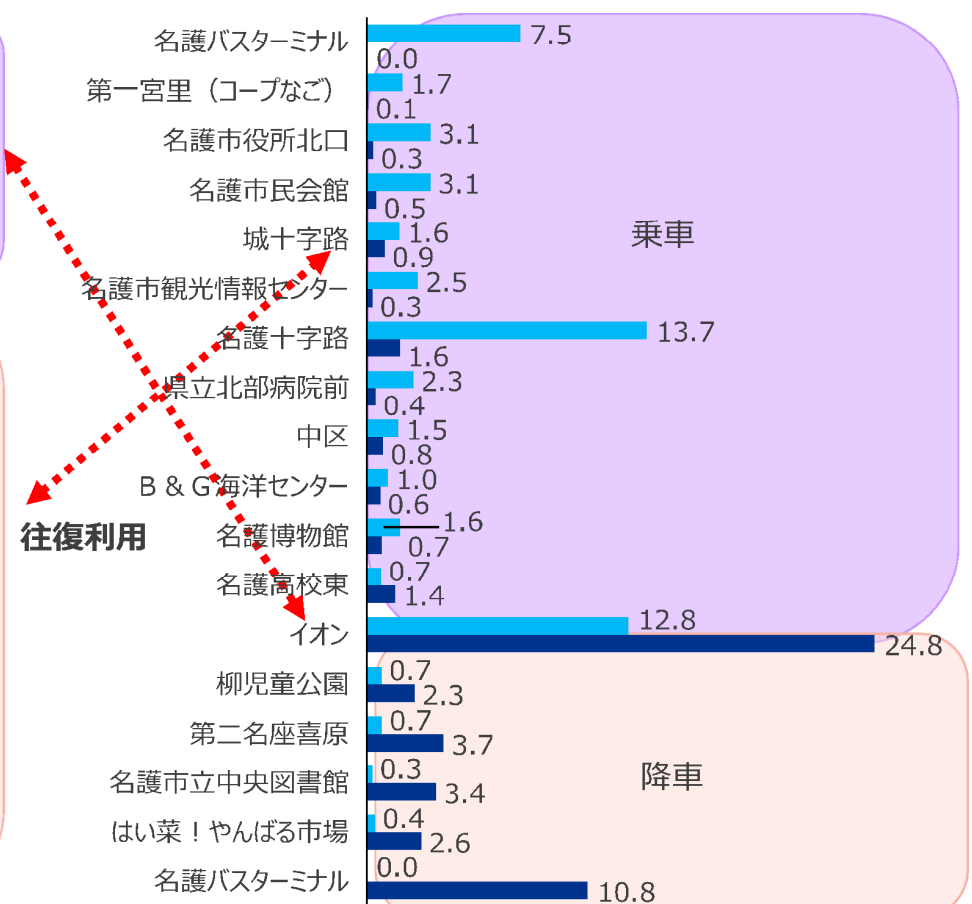
2.9 バス停別 日平均 乗降者数

乗車(人/日)
降車(人/日)

循環線（右回り）



循環線（左回り）



5. 名護市コミュニティバス(なご丸)の利用状況

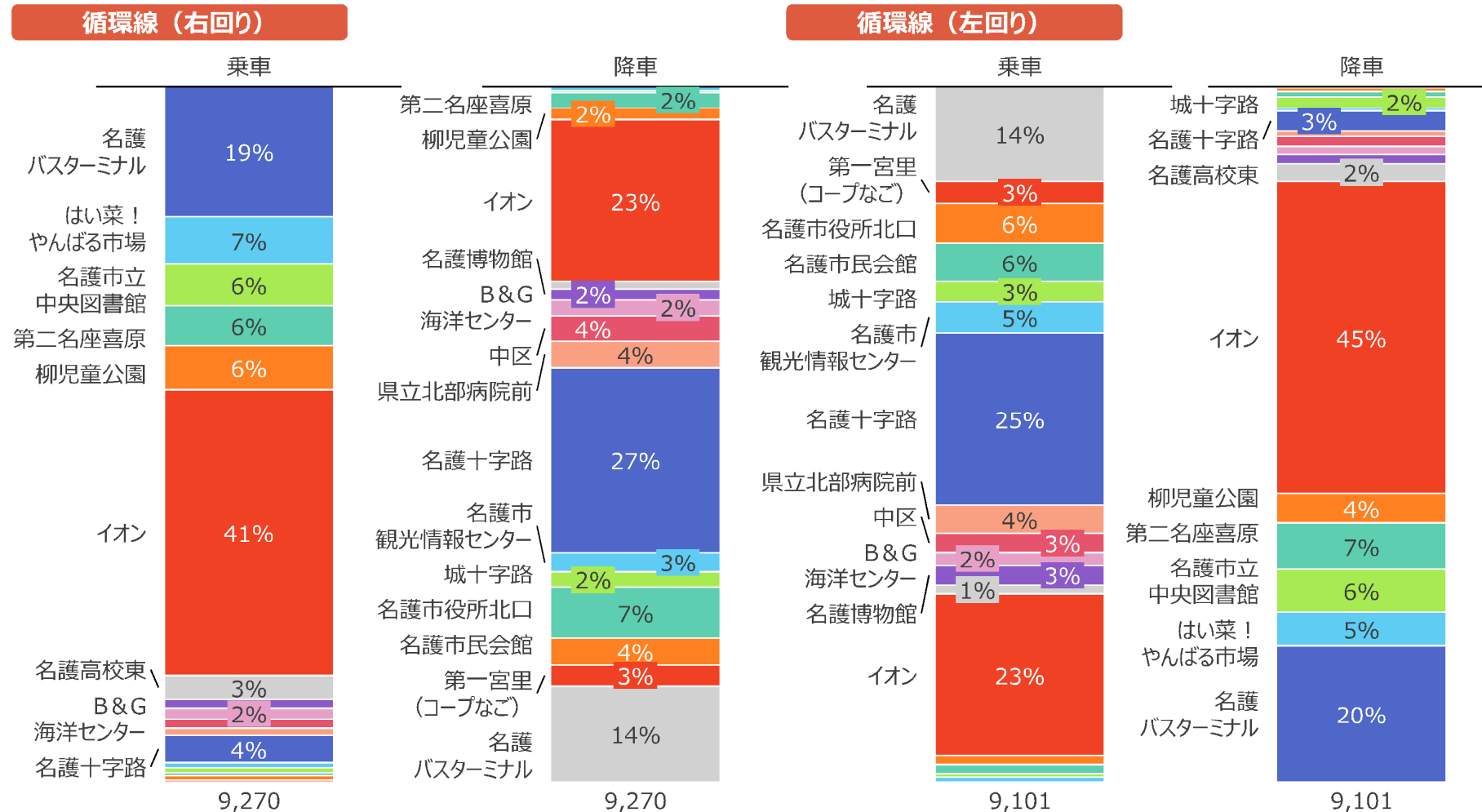
【課題5：名護漁港と中心市街地の回遊性の強化】 【課題7：中心市街地の賑わいの創出】 への対応

4-2. 名護市コミュニティバス(なご丸)(循環線)の利用状況

過年度と同様に、イオン、名護十字路、名護バスターミナルでの乗降者が多く、上記3バス停で全乗降の65%を占める

2. 循環線の利用実績

2.10 各バス停の利用者割合



※1.5%以上をラベルとして表記

出所：コミュニティバス運行事業者からの提供データ（2023年9月～2024年2月）

※名護市地域公共交通協議会（R6.3.28）資料より

6. 今後の検討について

項目	検討内容
課題 1 : 狭隘道路や老朽住宅の解消による 生活環境の改善	・名護中心市街地土地地区画整理事業を具体化、推進（事業計画書の作成、基本設計）
課題 2 : 避難場所の確保された 安全・安心なまちづくり	・名護中心市街地土地地区画整理事業を具体化、推進（防災機能強化の取組等）
課題 3 : 住み続ける（商売し続ける）ため の都市機能の強化	・名護中心市街地土地地区画整理事業を具体化、推進（市街地再開発事業等） ・総合交通ターミナル側の集客施設に関する企業へのヒアリング
課題 4 : 路線バスの乗り継ぎ利便性の向上	・名護市における将来の交通ネットワーク体系の検討 -コミュニティバス本格運用、ジャングリアの開業/公立沖縄北部医療センター開院等の影響 -総合交通ターミナルへの乗り入れ、海上交通との接続 ・公共交通利用者実態調査（名護十字路周辺の利用実態も把握）
課題 5 : 名護漁港と中心市街地の 回遊性の強化	・総合交通ターミナル整備後を見据えた実証実験の検討
課題 6 : 名護漁港、国道58号、中心市街地 の公共施設の再配置等による都市 機能の集積	・名護市総合交通ターミナルの施設規模、機能配置の検討 ・名護中心市街地土地地区画整理事業を具体化、推進 （公共サービス機能を核とする複合施設検討深度化）
課題 7 : 中心市街地の賑わいの創出	・総合交通ターミナル側の集客施設に関する企業へのヒアリング ・名護中心市街地土地地区画整理事業を具体化、推進（回遊促進等、ソフト方策の検討）

・上記項目に関連し、中心市街地まちづくりに求める住民ニーズをより具体的に把握・分析するため幅広い世代を対象とした住民ワークショップを実施予定。また、名護市内の高校生を対象に、アンケート調査を実施予定。